治療用装具の費用を受領委任払いに

小栗 義朗

質 **義足や義手、コルセットなどの治療用装具の制作費や購入費用は、一度患者が全額を負担し、市に申請した後に7割分が返還される仕組みとなっている。国民健康保険の加入者には年金生活の高齢者も多く、たとえ一時的であっても費用の全額を負担することは、経済的な負荷が大きいと考える。本市の過去3年間における申請件数、申請者の年齢構成、1件当たりの費用の平均額および最高額については。**

答 過去3年間における申請件数は671件で、年齢層は60歳から74歳までが約8割を占めている。また、1件当たりの平均負担額は約3万2千円、最高額は約102万8千円となっている。

質 **治療用装具の費用について、3割分だけを自己負担し、残り7割分の請求は医療機関に委任する「受領委任払い」という方法がある。室蘭市は本年度、室蘭市医師会や関係事業者との間で、制度設計に向けた協議を行うとのことであるが、本市の考えは。**

答 室蘭市とは同じ医療圏でもあり、本市としても課題は多いものの、室蘭市に確認し、検討したいと考える。

公共施設整備の優先順位取り決めへ

辻 弘之

運転免許自主返納や、臨時認知機能検査により、自動車の運転ができなくなる高齢者が増加してきていることを確認しました。後期高齢者になって、急に交通弱者となる方々が安心して生活できるよう、社会福祉協議会による「地域拠点丸ごと支えあい事業」の支援や、新たな支援事業の検討を求めました。その結果、本年設置される「地域公共交通のあり方を検討する場」において、高齢交通弱者への支援策を協議していくことになりました。

また、公共施設整備全般の今後の方針について、いまだ具体的に示されていないものを中心に、協議の進め方を質疑しました。その結果、栄町保育所の民営化の基本方針を平成29年度中に策定していくことが示されました。また、給食センターは老朽化し、耐震基準に乏しく衛生管理基準にも十分に適合しておらず、早急に建て替えについて議論を進めていくことになりました。市役所本庁舎建て替えについては、本年秋までに具体的な方針を示し、その際に公共施設全般の優先順位についても整理するとともに、明示していくことが約束されました。

子育て施策について

米田 登美子

質 **子ども・子育て支援事業計画に、登別市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書の結果などをどのように反映させ、施策の充実を図るのか。**

答 国の子ども・子育て支援新制度においては、市のニーズ調査結果を基に教育・保育の量の見込みを設定し、提供体制・確保策の考え方などを定めるとされていることから、量の見込みを基に提供体制などを反映している。また、ニーズの高いものについては、その充実に繋がるよう、事業の見直しなどに努めている。

今後についても引き続き本計画の基本理念の実現のため、子ども・子育て支援に関する施策の充実などに努めていく。

質 **学び・育ちシートの対象年齢と実施状況について。**

答 本年度は試行期間と位置づけて実施し、子育て施設（幼稚園・保育所・認定こども園）通園児で、対象年齢は0歳から5歳としていた。3歳未満児童において、通所していない児童への対応の視点が漏れていたので、その他の留意点も含め検討していきたい。

イベントやスポーツ大会の積極的誘致を

戸井 肇

観光施策の一つとして重要な、人々が集まる研究会やスポーツ大会開催などの状況を質問しました。

質 **各種会議や大会などの開催時に、駅や商店、宿泊施設などに歓迎の垂れ幕を掲示するなど、全市的な歓迎ムードを醸成していくべきでは。**

答 大会などの開催半年程度前までに相談していただければ、市は可能な範囲内で対応していく。過去にオープニングアトラクションの依頼を受け、熊舞や鬼踊りを披露したり、湯の華をノベルティーとして参加者に配布したこともある。

質 **市民会館の収容人数は約650名である。それ以上に収容可能な施設は、日本工学院北海道専門学校の体育館のみで、主催団体が直接学校にお願いしている。市と学校が協定を結び、市を窓口として借用することはできないのか。**

答 日本工学院とは平成27年9月に包括連携協定を締結したが、市の主催に関する協定であり、観光振興における利用はされていない。今後大きな会議やスポーツイベントがある際に相談があれば、日本工学院と協議したい。